



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第49号
2009. 6月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・今年 の地すべり と雪崩 の発生状況 ・トピックス
 ・H21 年度 の研究テーマ ・転入者紹介 ・平成 21 年度メンバー

今年 の地すべり と雪崩 の発生状況



H20 年 3 月 25 日に、新潟県妙高市下平丸地区で幅 105m、長さ 220m にわたる地すべりが発生

新潟県、長野県の融雪地すべり発生状況

今冬は積雪が非常に少なく、当センターでの最大積雪深は 46cm でした。

図 1 は、新潟県と長野県における過去 10 年間の 1～4 月の地すべり発生件数を示したものです。H21 年は新潟県 8 件、長野県 4 件となっており、過去 10 年間では新潟県が H19（5 件）に次ぐ 2 番目、長野県が H19（2 件）、H11（3 件）に次ぐ 3 番目に少ない年でした。また、発生時期は新潟県では例年 4 月が一番多いのですが、今年は 3 月が多くなっています。

長野県では例年 2 月は少ないのですが、今年は 2 月が一番多くなっています。地すべりの発生件数及び発生時期も、気候変動の影響により変わってきたのでしょうか。

今年 の雪崩 の発生状況

H20-21 年冬期は少雪となり、人的被害のあった雪崩のほとんどは山岳地域における登山・スキーに関連するものでした（表 1）。

しかしながら、被害はなかったものの降雨の後にスキー場で雪崩が発生した事例も数件報告されており、暖冬少雪でも雪崩の発生に注意する必要があるといえます。

表 1 H20-21 年冬期の雪崩事故発生状況

No.	発生日	発生場所	対象	被災状況
1	12月27日	岐阜県高山市 抜戸岳	登山	2人死亡
2	1月19日	青森県西目屋村 県道西目屋二ツ井線	除雪作業	1人負傷
3	1月25日	長野県白馬村 八方尾根無名沢	山スキー	1人負傷
4	2月8日	北海道蘭越町 ニトスプリ	山スキー	2人負傷
5	3月2日	北海道喜茂別町 羊蹄山	山スキー	1人負傷
6	3月7日	山梨県北杜町 八ヶ岳連峰	登山	2人負傷
7	4月2日	栃木県那須町 茶臼岳	登山	1人死亡、1人負傷

（新聞記事等から人的被害のあったものを整理）

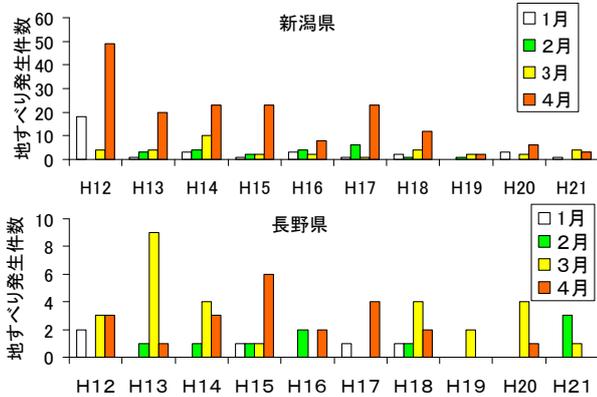


図 1 1～4 月の地すべり発生件数の推移
 （新潟県、長野県砂防課調べ）

トピックス

■ JICA 研修生来訪

4月22日、海外からの研修生3名が、JICA火山学総合土砂災害対策研修の一環として当センターを訪れました。研究生のプロフィールは以下の通りです。

氏名	派遣国	所属
ヒダヤ ムスタファ ムクティ	インドネシア	公共事業省
パンサオ アブドゥルジャリル ミトゥム	フィリピン	公共事業道路省
カルセド エルナンデス アレハンドゥラ セレステ	ベネズエラ	市民保護・防災管理局

研修では、丸山総括主任研究員により地すべり防止工事に関する講義と地すべり防止工事計画の演習が行われました。演習では、各研修生が地すべり調査結果をもとに、施設の配置計画を作成し討議を行いました。



■ 学会研究発表会

5月16日に石川県加賀市で日本雪氷学会北信越支部研究発表会、5月16～21日に千葉県幕張メッセで日本地球惑星科学連合2008年大会、5月27～28日に広島市で砂防学会研究発表会がそれぞれ開催されました。当センターからは、以下の研究発表を行いました。

学会名	タイトル	発表者
雪氷学会北信越支部	無雪期の地形データから積雪期の斜面形状を推定する手法の検討	伊藤陽一
	レーザー計測データを用いた雪崩発生域・非発生域の植生状況の比較	富樫香流
地球惑星科学連合2009年大会	2007年新潟県中越沖地震などを事例とした地すべりの分布と震源断層との関係	ハスパートル
砂防学会	中越沖地震により発生した地すべりの地形・地質的特徴	ハスパートル
	繰り返し荷重を受ける地すべり土塊の変位と間隙水圧の変化特性	丸山清輝
	第三紀層地すべり地における加熱式地下水検層と食塩式地下水検層結果の比較	鈴木聡樹
	平成18年豪雪時の積雪安定度の変化と雪崩災害発生状況の比較	伊藤 陽一

H21年度の研究テーマ

雪崩・地すべり研究センターにおける H21 年度の研究課題を紹介します。

地すべり部門

①地震時における再滑動地すべり地の危険度評価に関する研究

重点プロジェクト研究として H20 年度から 3 年計画で、第三紀層地域における地震時の地すべり発生危険度評価法の提案を目指して研究を進めています。

②地すべり地における地下水排除施設の適正な維持管理に関する研究

地下水排除施設の維持管理の実態把握と適正

な維持管理方法について、H20 年度から 3 年計画で研究を行っています。

③地すべり対策斜面の耐震性と地すべり斜面の地震時安定性評価に関する研究

近年の激甚な地震による既往地すべり対策施設の被災状況を調査し、既往施設の地震に対する耐震性などについて、H21 年度から 3 年計画で研究を進めています。

雪崩部門

①雪崩対策工の合理的設計手法に関する研究

戦略研究として、H21 年度から 3 年計画で、雪崩予防柵や防護工の高さを、より合理的に決定する手法の提案を目指しています。

②大規模雪崩の発生予測に関する研究

H19 年度から 3 年計画で、長距離を滑走し大きな被害をもたらす大規模雪崩の発生条件を調査し、事前に危険度を評価する手法の提案を目指して研究を行っています。

転入者紹介

交流研究員 中村 明

4月からお世話になります中村明と申します。これまでに地すべり防止に関する業務を主に行ってきました。ここでの研究を通して「地すべりとは何か」ということを考えたいと思います。



平成 21 年度メンバー

所長 石井靖雄
 主事 阿部 悦
 総括主任研究員 丸山清輝
 研究員 伊藤陽一
 研究員 ハスパートル
 交流研究員 富樫香流
 交流研究員 中村 明
 非常勤職員 渡部恵里
 非常勤職員 和田美乃



ニュートンのりんごの木

5月8日現在の、ニュートンのリンゴの木のようなすず。リンゴの花がたくさん咲きました。大きさは3.5cm、色は淡いピンク色です。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載しておりますので、ご覧下さい。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
 土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター

住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8

TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: http://www.pwri.go.jp

掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。